



○希望の「像」について



当センター宿泊棟の正面玄関に向かって、彫像が建っています。作品名は「汗」、作者は横山文夫氏、1965年秋、県の依頼によりここに建てられ、台座の後面には「県民の協力により若人の将来を祝福して」と刻まれています。本年8月に同氏の作品を巡る旅をされている親族の方が訪れ、故人の足跡を確認されました。同氏は大正5年、綾歌郡綾歌町（現丸亀市綾歌町）

に生まれ、高松工芸学校卒業後、東京美術学校（現東京芸大）彫刻科に進み、北村西望氏らに師事、その後、東京での教員生活の傍ら創作活動を続け、文展・日展入選20回以上を数える彫刻家として大成されました。

第7回日展特選作品である、筋骨隆々の引き締まった表情の青年がタオルで汗をぬぐっているこの像は、五色台に集う青少年に「自らを律し鍛えよ！」と呼び掛けているようであり、「五色台教育」に込められた大きな期待を今なお伝えてくれています。



シリーズ 自然科学展示室⑦ <豊嶋 弘 昆虫コレクションコーナー>

2016年、香川県に豊嶋弘氏の6万8千点余りに及ぶ昆虫標本が寄贈され、当展示室で一部展示するとともに、昆虫標本保管室で収蔵管理している。チョウや甲虫だけでなく、蛾やハエ、ハチなどあらゆる種類にわたり、日本国内約5万点、国外約1万8千点にも及ぶ膨大な標本である。標本の多くは自然環境が大きく変化した1960年～1970年代に採集されたものが多く、現在ではすでに得ることができない貴重な標本が数多く含まれ、その時代の環境と昆虫との関係を知ることができる。

現在、標本の同定と記録作業を行っており、標本のデータベース化に取り組んでいるが、記録作業完了後はパソコンで検索し、標本を確認できるようになる予定である。

